

2024/6/10（月）

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 7章 24-27節（新約聖書 12頁）

そこで、私のこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川が溢れ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。私のこれらの言葉を聞いても行わない者は皆、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川が溢れ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れて、その倒れ方がひどかった。

足もと

例年より遅いようですが、そろそろ梅雨入りでしょう。天からの雨は生きとし生けるものを支えると同時に、その命を押し流すものでもあります。過度な産業による地球温暖化が豪雨の原因と言われていますが、ノアの洪水のような試練なのでしょうか。

「岩」を土台としなさいとあります。聖書で岩は強い陽ざしを避ける日陰、敵から逃れる隠れ家、地震など災害の時の避難所、そして砂漠のオアシス（泉）の象徴として描かれています。命を支える堅固な岩、信頼の拠り所、救いの象徴です。

人生が順風満帆の時には自分の足もとを忘れてしまいます。例えば試験が近づいて慌てて勉強するようなものです。でも学んだことの手応えとはそう簡単に感じるものではありません。砂上の楼閣の知識はすぐに崩れ、流されてしまいます。

簡単に言えば一夜漬けの知識は岩ではなく砂の上に建てた家です。「岩の上に自分の家を建てた賢い人」の「岩」とは何が大切で、必要なのかを見極める知恵です。何度も失敗し挑み続け、いつの間にか岩の上に自分の家が建っている、足もとに気づくのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、新しい朝を迎える幸いを感謝します。季節は巡り梅雨の時を迎えようとしています。慌ただしい日々を過ごしながらも、心を静め立ち止まり、今、わたしに、わたしたちに何が大切で、何が必要なのかに気づき、あなたが岩として支えて下さっている喜びと感謝に与らせてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン